

JAFAME ニュース

NO.20-2 March 31th, 2017

2016年10月29日(土)に日本貿易学会・アジア市場経済学会合同研究会(於: 明治大学駿河台校舎)が、2017年2月18日(土)に日本貿易学会・アジア市場経済学会西部部会合同研究報告会(於: 広島経済大学立町キャンパス)が開催されました。部会事務局の先生方並びに関係スタッフの方々に厚く御礼申し上げます。

第21回全国大会(2017年度)は和光大学(東京都町田市)にて7月1日(土)、2日(日)の日程で開催されます。研究活動の活性化を通じて、更なる学会の発展を目指したいと考えておりますので、学会員の皆様には一層のご協力を賜りますようお願い致します。また、学会の運営に関しまして、忌憚ないご意見・ご要望をお寄せください。今後とも本学会員の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本号の主な内容

- I. 部会研究大会
- II. 第21回全国研究大会のお知らせ
- III. 学会の運営に関する事項
- IV. 入退会者一覧
- V. その他

アジア市場経済学会
Japan Academy for Asian
Market Economies

〒195-8585 東京都町田市金井町2160
和光大学経済経営学部経済学科
葉山幸嗣研究室内 アジア市場経済学会本部事務局
Tel: 044-989-7777(内線5404)
Mail: koyan@mvi.biglobe.ne.jp
HP: <http://www.jafame.jp/>

I. 部会研究大会報告

1. 第3回日本貿易学会・アジア市場経済学会合同研究会 開催

場所：明治大学駿河台校舎リパティータワー15階 1154教室

日程：2016年10月29日（土）14:30～17:20

(プログラム)

第1報告（14：30～15：20）

議題：「日本の主要港湾に関する港湾政策の変遷に関する考察」

報告：長田 元（宇都宮大学 博士課程）

司会・コメンテーター：吉岡 秀輝（高崎商科大学）

第2報告（15：25～16：15）

議題：「中国「一帯一路」構想とその実現の可能性」

報告：陳 建安（中国復旦大学）

司会・コメンテーター：細川大輔（大阪経済大学）

第3報告（16：30～17：20）

議題：「シャープ買収に見る鴻海精密工業の世界戦略」

報告：草野 英信（元日立製作所・和光大学）

司会・コメンテーター：高橋 義仁（専修大学）

2. 日本貿易学会・アジア市場経済学会西部部会合同研究報告会

場所：広島経済大学立町キャンパス 3階 131教室

日程：2017年2月18日（土）13:00～17:30

(プログラム)

第1報告（13:00～13:45）

論題：「逆委託加工貿易における課税制度への提起」

報告者：佐々木 建洋（ヒューマンアカデミー）

コメンテーター：栗原 理（広島大学）

司会：中井 教雄（広島修道大学）

第2報告（13:50～14:35）

論題：「TSU-BPO取引の現状と今後～貿易金融電子化の可能性」

報告者：花木 正孝（近畿大学）

コメンテーター：宇野 克彦（三菱東京UFJ銀行）

司会：中井 教雄（広島修道大学）

第3報告（14:40～15:25）

論題：「我が国における米の輸出入について」

報告者：勝田 英紀（近畿大学）

コメンテーター：塩田 靖浩（Shiota Trade Consulting Office）

司会：Nguyen Duc Lap（広島修道大学）

第4報告（15:45～16:30）

論題：「タイにおけるコメ経済の変容と国内バリューチェーン形成の課題」

報告者：小林 弘明（千葉大学）

コメンテーター：川本 明人（広島修道大学）

司会：Nguyen Duc Lap（広島修道大学）

特別講演（16:35～17:20）

議題：「アジアの経済発展と市場経済」

講演者：西澤 信善（東亜大学）

司会：栗原 理（広島大学）

Ⅱ. 第 21 回全国研究大会のお知らせ

第 21 回全国研究大会が以下のように予定されております。皆様の多数かつ積極的なご応募をお待ちしております。

1. 統一論題 趣意書（第 21 回全国研究大会実行委員長 伊東達夫）

(1) テーマ：

「アジア市場経済学の誕生と発展－アジア市場経済とは何か－」

(2) 趣旨：

アジア市場経済学会は 1997 年 11 月 22 日に創立され、本年度で 20 周年を迎える。設立当初から現在に至るまで、世界経済は「21 世紀はアジアの時代」と呼ばれるに相応しい状況を迎えている。この間、アジア通貨危機、中国経済の台頭、TPP、ASEAN 各国の目覚ましい経済成長などを経験した。アジア経済は様々な経済ショックを受けながらも、なお、着実な成長を続けている。

このような中、本学会は 20 年間にわたり、経済学、経営学、そして商学といった様々な学問領域で、学際的な研究をおこなってきた。アジア市場に関する本質的な理論的研究、あるいは実証分析、事例研究などを通じて、「アジア市場経済学」と呼ぶべき新たな分野の体系的・発展的な学術的追求を行ってきた。

このような新分野の必要性は、アジアの特有の文化にある。アジアの時代を迎える以前、日本と世界経済の交流は、ヨーロッパあるいはアメリカ資本主義的なアプローチによる、経済・経営手法で十分であった。そこでは、相対的に十分な所得、必要なインフラ、穏やかな為替レート、そして安定的な政治システムが存在するためである。

その後、アジアの経済成長が始まると、巨大マーケットとしてのアジア市場を意識せざるを得なくなった。日本の多くの企業は、新しい市場としてのアジアに、進出・投資をするようになった。

しかし、アジア経済は先進諸国のそれとは異なる経済思想、多様な文化習慣、あるいは商慣行を持ち、アジア特有の経世済民が存在している。このため、日本企業が従来のアプローチでアジア市場へ進出した当初は、従来の経営戦略では限界があることを認識したのである。

このためこの 20 年間、アジア経済、あるいはアジア市場について、学術的・政治的・経営的研究が数多くなされてきた。本学会はまさに、このような問題について研究を重ねてきたものであり、この 20 年間において一定の成果を挙げてきた。そこで、20 周年を迎える全国研究大会においては、「アジア市場経済学の誕生と発展」を統一論題とし、以下に掲げる項目について、深い議論を交わしたい。

I アジア市場経済学 経済学からのアプローチ

この 20 年にわたり、アジア各国同士、およびアジア各国と日本の経済関係は様々な変化してきた。1997 年には、それまで「アジアの奇跡」と呼ばれた経済成長に、「アジア通貨危機」が発生し、瞬く間にアジア経済は停滞に陥った。その後、IMF や各国の援助、変動為替相場制度への移行や十分な外貨準備の保有などによって、再びアジア経済は成長軌道にのっている。

そこで、経済学的アプローチから、この 20 年間に発生した様々な経済事象の分析、総括、また現状分析および今後の見通しなどの議論を深めたい。

Ⅱ アジア市場経済学 流通・マーケティングからのアプローチ

アジア市場経済学会における研究発表では、経済学・経営学に関する研究成果と同等に、アジア市場における流通・マーケティングに関する研究が充実していた。

過去 20 年間、アジア市場は陸海空のインフラ整備が課題となってきた。これは途上国では必要なインフラが未だ十分に整備されていないためである。この点において、アジア市場には常に物流の問題がつきまどってきたのである。これは、アジア市場の特徴であろう。

また、アジア特有の文化・慣習はアジア市場独自のマーケティングも必要とさせた。市場の成熟に伴い、アジアのマーケティングもまた、アジア市場経済特有の研究対象である。

このような問題を深く研究し、課題解決を図るのは、まさにアジア市場経済学を構成する大きな柱であろう。アジア市場の流通・マーケティングについて、深い議論を期待するものである。

Ⅲ アジア市場経済学 経営学からのアプローチ

20 年前のアジア市場における経営学の目下の課題は、アジア市場における日本企業の進出・経営戦略が主だった。どのようにして、成長著しいアジアに展開し、利潤を挙げることができるのか、その分析が重要であった。その後、日本企業はアジア各国の文化・慣習に合致した経営戦略を採るようになる。

現在では、アジアの企業も成長し、例えば SHARP を買収した鴻海精密工業など、アジア企業の日本進出も見られるようになっている。

そこで、第三番目の論題として、アジア市場経済学における、経営学からの分析を期待する。ここでも、経済学からのアプローチと同様、20 年間における日本企業の経営の変化、分析、あるいはアジア企業の経営に関する分析などをしていく。

以上

(2017 年 2 月 1 日 受理)

2. 大会案内および統一論題・自由論題報告者募集

(1) 開催日

2017 年 7 月 1 日 (土)、2 日 (日) に、和光大学にて開催する。なお、理事会は 6 月 30 日 (金) に開催する。

(2) 統一論題

「アジア市場経済学の誕生と発展ーアジア市場経済とは何かー」

(3) 統一論題・自由論題の申込

(1) 申込方法：下記事項をご記入の上、メールあるいは Fax (郵送も可) にてお送りください。下記①②④につきましては、英文での表記も併せてお願い致します。報告申込者には事務局より確認の返信をします。

- ①名前 ②所属 ③連絡先 (住所, 電話, Fax, E-mail) ④報告論題
- ⑤報告要旨 (400 字程度) ⑥統一論題か自由論題かの明記
- ⑦希望予定討論者 ⑧その他

(2) 申し込み先：和光大学 稲田圭祐 (大会事務局)
〒195-8585 東京都町田市金井町 2160 番
Tel : 044-989-7777 (内線 5503)
E-mail : jafame21@gmail.com

(3) 申込締切日：2017 年 3 月 31 日 (金)

(4) 配布用「報告要旨」原稿の締め切り予定日：2017 年 5 月 12 日 (金) 必着

Ⅲ. 学会の運営に関する事項

1. 2016年度 第2回理事会議事録

期 日：2016年12月27日（火）

時 間：14時～16時

場 所：専修大学（神田校舎）

出席理事・会計監事・顧問：高橋義仁，葉山幸嗣，庄司真人，中井教雄，川本明人，
石原伸志，松尾仁，林田秀樹，菊池一夫，岡本喜裕，
小林弘明（委任状10通）

出席幹事（オブザーバー）：大島英雄，柏木理佳

日本学術会議担当：西澤信善，村松潤一

報告事項

（1）会長より

特になし。

（2）本部事務局より

本部事務局より，来年度理事選挙被選挙権者リスト作成について，会員の生年月日
を特定する作業が進んでいることが報告された。

（3）第21回全国研究大会担当校より

担当校より進捗状況の報告と準備スケジュールについて報告がなされた。1月下旬
に会員へ報告募集がなされる旨が報告された。

（4）各委員会より

・総務委員会報告

中井先生より，名簿の配布が年報と一緒に年明けが予定されていることが示され
た。また，入会申込書のフォーマットを改変する旨が示された。また，変更届がな
いため，これを作成予定である。

・研究委員会報告

東アジア地域研究会との合同研究会が中止になったことが報告された。西部部会
として貿易学会との合同研究会を2月18日（土）に，広島経済大学のサテライトキ
ャンパスを開催計画であることが示された。

・年報委員会報告

年報19号と20号の進捗状況について報告がなされた。

・国際交流委員会報告

2017年3月26日～30日にヤンゴンに視察へ行く予定である。現地集合・現地解
散，現地企業と大学へ視察しに行く予定であることが示された。

・20周年記念行事委員会報告

岡本先生より「アジア市場経済学科20年のあゆみ」の編集作業が進行中であるこ
とが報告された。各委員長や顧問，副会長などに執筆を依頼している。原稿の締め
切りは1月31日を予定している。出版社については佐藤印刷に依頼する方針である
ことが示された。出版日としては6月末を予定している。

西澤先生より20周年記念シンポジウムについて，「ASEAN経済共同体の後発加盟
国へのインパクト」で開催予定であることが報告された。基調報告として石川幸一
先生，司会として古川久継先生にお願いする予定である。開催日時は来年度全国研
究大会との共催で，2017年度7月1日午後を考えている旨が示された。

・アジア市場WG報告

20周年記念事業の一環として，「アジア市場経済学の動向と成果（仮）」を発行
予定である。各執筆者には2月末に原稿締め切りをお願いしており，来年度全国研
究大会で配布予定である。

- (4) その他
特になし。

議題

- (1) 会長より
特になし。
- (2) 理事会推薦次期理事推薦者名簿について
高橋会長より、例年のとおり、来年度理事推薦者名簿を作成する方針が示された。名簿作成については、会長が委員長を指名し、委員長がメンバーを構成し、名簿を作成する案が示された。
石原先生からは、他学会理事選の方法が説明され、様々なやり方を検討することも良いのではないかと提案があった。
最終的に名簿作成については、会長の提案どおりとし、名簿が完成した場合には理事会で諮り確定することになった。
- (3) 選挙管理委員会の発足について
2の決定に準じて発足させることになった。
- (4) J-STAGE に関する事項
高橋会長より、現況では年1回年報を紙ベースで発行している。それをオンライン化して J-Stage に移行する手続きが進んでいる。予算について、紙ベースで80万円かかり、J-Stage で40万円（委託する場合、しない場合は0円）かかる。このため、どの媒体で発行するべきかという問題点がある。
他学会では論文掲載料を徴収している場合もあるとの意見が出た。
この点について、高橋会長が J-Stage への移行について試行し、具体的な金額・方法・手間を確かめ、次回以降の理事会で報告することとなった。
- (5) 第21回全国研究大会と20周年記念事業について
来年度大会スケジュールが確定された。2017年6月30日（金）理事会、7月1日（土）午前自由論題・午後20周年記念シンポジウム、7月2日（日）午前統一論となった。
- (6) 学会賞創設の検討について
学会賞について滞っているので、運営を活性化することとなった。手続きなどについて再確認する必要があることが確認された。
- (7) WGのタスクについて
報告事項に準じる。
- (8) 会員の入退会
学会の入退会者が報告され承認された。
学会員数248名。
石原先生より年齢が理由の退会について、シニア会員枠を作るべきとの提案があった。
- (9) その他
高橋会長より若手の研究者入会を促すべきだとの発言があった。
西澤先生より、東亜大学で2月にシンポジウムが開催されるので、西部部会の会員に参加して欲しい旨の発言があった。また、法人会員の獲得のため、企業との交流を深めていく必要があるだろうとの提案があった。

IV. 入退会者一覧

1. 会員の入退会が了承された。

2016年12月27日現在、会員数248名（うち法人会員2社、海外会員42名）

V. その他

1. 2016年度海外視察研修の実施

日程：2017年3月26日（日）～30日（木）（基本スケジュール）

3月26日（日）：日本各地発～ヤンゴン着（ヤンゴン泊）

3月27日（月）：企業訪問（宿泊地未定）

3月28日（火）：企業訪問（宿泊地未定）

3月29日（水）：ヤンゴン経済大学との研究報告会，ヤンゴン発（機内泊）

3月30日（木）：日本各地着

現地集合・現地解散としますので，ミャンマーでの前泊・後泊や，前後日程での他国訪問なども可能です。

【活動内容および募集】

今回の海外視察研修では，企業等訪問に加え研究報告会を実施することを計画しています。訪問先は，ミャンマー・ヤンゴン市ほかの日系企業，現地企業および政府機関（検討中）です。

<訪問先候補>

Myanmar Japan Center, JICA 事務所, SEZ ティラワ

ADB 事務所, UNDP 事務所, World Bank 事務所

Victoria Hospital (Witoriya Hospital)

また，ヤンゴン経済大学 (Yangon University of Economics) (ヤンゴン市) で研究報告会（発表言語は英語）の実施を検討中です。

詳細の報告につきましては，次号 (No.21-1) に掲載する予定です。

以上